令和３年度　取組報告　　**都南中学校区地域教育協議会**

めざす子ども像

○ みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
○ 「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども
○ 感性豊かで、たくましく自立する子ども
○ 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
○ 共に汗して働くことのできる子ども

取組目標

すべての園児・児童・生徒に 15 年間の連続した「学び」を保証するために、地域の力を活用しながら学校園の教育活動を支援する。また、学校園を核とした地域コミュニティの活性化と、地域の教育力を高めるための協働により、地域に園児・児童・生徒が活躍できる場を作ることで「自己有用感」の育成を図る。

【今年度の取組紹介】

昨年度からの新型コロナウイルス感染症が拡大と減少を繰り返す中、様々な事業を実施できるよう検討し計画しましたが、感染予防を最優先に考え残念ながら中止といたしました。

そのような中でしたが、ＳＡＫＵＲＡ夢スクールは感染防止対策に注意をしながら英会話・編み物の２講座を開講することができました。

【今年度のまとめ】

様々な計画を何とか実施できるように検討しましたが多くの事業を実施することができず残念に思います。

【来年度に向けて】

新型コロナウイルスの影響が２年にもおよび依然として感染状況の予測は難しいが、子どもたち・学校園・地域が協力して事業の実施に向けて検討していきたいと思います。

令和３年度　取組報告　　**奈良市立都南中学校運営委員会**

めざす子ども像	**〇みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども** **〇「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども** **〇感性豊かで、たくましく自立する子ども** **〇地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども** **〇共に汗して働くことのできる子ども**
取　組　目　標	**自己有用感を育成し高めることで、** **学習への意欲回復・基礎学力の向上と規範意識の育成につなげる。**

【今年度の取組紹介】

「地域に開き、地域と共につくる学校」をテーマに様々な活動を計画しておりましたが、今年度についてもコロナ禍での活動は難しく、ほとんどの活動をやむなく中止することとなってしまいました。二年連続でこのような状況が続き、生徒と地域の方々とのつながりがしだいに薄れていくのではないかと、懸念するところもありましたが、二年前まで（小学校のころまで）の取組がしっかりと生徒の心に残り、生徒と地域の方々との強い絆が育まれていることがアンケートの結果からもわかりました。

図書館運営においては、継続的に地域ボランティアの方々による協力をいただき、読書推進活動がすすみました。生徒の図書室の利用制限がある中、安心・安全にいつでも自由に図書室が利用できるように、室内のレイアウトを変えていきました。

「クリーンキャンペーンの様子」

【今年度のまとめ】

昨年度に引き続き、今年度に関してもコロナの影響は大きく、スローガンである「地域で子どもを育てる」という地域の方々とともに行う様々な取組の多くができませんでした。しかしながら、できない中で、改めて地域の方々の存在の大きさや交流の大切さを再認識する一年となりました。

また、一部活動をすることができたものに関しては、やはり生徒への影響が大きく、自己有用感の高まりにつながり、自己形成の一助になったと感じます。

【来年度に向けて】

来年度こそは「地域に開き、地域と共につくる学校」をテーマに掲げ、事業を推進していこうと考えています。地域の人に学校へ足を運んでもらう取組を継続しながら、その中で地域の方々との触れ合いを通じて、生徒たちが「自己有用感」を感じ、さらには地域の一員としての認識の向上や規範意識の醸成につながればと考えています。

令和３年度　取組報告　　**奈良市立東市小学校運営委員会**

めざす子ども像　**〇みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども**
〇「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども
〇感性豊かで、たくましく自立する子ども
〇地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
〇共に汗して働くことのできる子ども

取組目標　**地域と学校が連携して学習環境の整備に取り組み、子どもが地域の一員であることを自覚し、地域に誇りをもって生きようとする姿勢を育む。**

【今年度の取組紹介】

本校の地域の方々は「子どもは地域で育てる」ということを大切にしており、学校・地域・家庭が連携・協働して事業を進めています。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響下での事業の実施のため、できるだけ少ない人数でできる活動に絞って取り組みました。

〇　絵本の読み聞かせ活動

毎週水曜日の朝の読書の時間に地域の方に来ていただき、絵本を読んでいただきました。今年度は１０月からのスタートで低学年を中心に来ていただきました。今年度も活動が制限されたり他の人との接触を極力減らすことが求められたりするなど窮屈な環境だったので、この時間は子どもたちにとって大切な時間となりました。

〇菜の花プロジェクト

コロナ禍の中でしたが、今年度も地域の方との協力のもと、菜の花プロジェクトをすすめることができました。地域の方と協力して、昨年度に植えた菜の花を６年生が収穫し、搾油をしました。搾った菜種油は５年生が、世界遺産学習の際に春日大社と興福寺に奉納しました。そして５年生は来年収穫することになる菜の花を植えました。学年をまたいで活動が続いていきます。

【今年度のまとめ】

今年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年行っている事業のうち、屋内での活動や多くの方が交流するような行事については実施できないまま終わってしまいました。

そのような中でも地域と協力して取り組めることを進め、回数は少ないですが人とのつながりを感じる活動を行うことができました。

【来年度に向けて】

新型コロナウイルスの感染状況によって活動が実施できなかったり制限されたりしました。来年度も同様の状況が考えられるため、今年度できなかった活動の取り組み方について検討し直したり、新しい活動を模索したりすることも必要だと思います。これまでのよさを踏襲しつつ、新しい取組にもチャレンジしていきたいと思います。

令和３年度　取組報告　　**奈良市立辰市小学校運営委員会**

めざす子ども像

〇みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども

〇「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども

〇感性豊かで、たくましく自立する子ども

〇地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども

〇共に汗して働くことのできる子ども

取組目標

活動の中で子どもたちが地域とのつながりも感じられるような地域と密に連携した環境整備、学習支援活動等の取組の充実。

【今年度の取組紹介】

○ 環境整備活動事業

学校園や学級園の整備を行っていただき、子どもたちとともに季節に応じた様々な草花の栽培を行っていただきました。

季節ごとに玄関や職員室前の廊下の飾り付けをしていただき、きれいな手作りの飾りに、みんな足を止めて見入っていました。また、年末には松の剪定もしていただきました。

○ 授業サポート活動事業

家庭科の実習で協力いただきました。裁縫の実習では、ボランティアの方に補助をしていただき、ミシンの使い方等をはじめ、裁縫に関する手ほどきを優しく教えていただきました。

○ 読書力向上事業

絵本の読み聞かせボランティア「お話ドラゴン」のみなさんが、毎週水曜日に朝の学習時間を使って絵本の読み聞かせをして下さりました。また、学校図書館の整備を、図書館司書の先生とともに行っていただきました。児童も読書を楽しみにし、児童の読書力向上へつながってきています。

○ 児童の安全確保事業

毎日の登下校時に児童の見守りをしていただきました。また、１年生の給食が始まるまでは地域ごとに分かれ、一緒に下校していただきました。

【今年度のまとめ】

コロナ禍という、困難な状況の一年となりましたが、そのような中でありながら今年度も地域の方々に様々な面でご協力いただきました。地域と共に行った防災教育 DAY ははっきりと実感できる変化でしたし、登下校時の見守り活動や家庭科の実習補助、学級園での草花の栽培等においては、制限を設けながらの活動とはいえ、地域の方々と触れ合いながら活動したので、児童はたくさんの地域の方々に支えていただいているということを実感できたようでした。

【来年度に向けて】

依然として続くコロナ禍の中で、継続して行えるもの、一旦取りやめなければいけないもの、新たに活動を始めていくもの等、どのような活動ができるのかを模索していくことが引き続いての課題となってきます。

活動ボランティアが高齢化し、ボランティアを卒業される方が増えてきているという現状があります。新たな人材を発掘し、現状並みの人数を確保できるよう地域に働きかけていく必要があります。また、多くのボランティアの方に力を発揮していただき、人材を有効に活用することができるよう運営委員会を中心に活動内容や連絡体制を見直していく必要もあります。そしてより活動の活性化を図れるよう、ボランティアの皆さんの意見を聞き、取り入れていきたいと思います。

令和３年度　取組報告　　**奈良市立明治小学校運営委員会**

めざす子ども像　**〇みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども**
〇「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども
〇感性豊かで、たくましく自立する子ども
〇地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
〇共に汗して働くことのできる子ども

取組目標　**地域の教育力を活用し、継続性をもって学習環境や学習体験を豊かにしていく事業を目指す。**

【今年度の取組紹介】

今年度、４年生を対象に「明治地区自主防災防犯会」と「女性防災クラブ」のみなさんに協力していただき、『自分たちが暮らす地域ではどんな備えをしているのか』を学ぶための防災学習をしました。４年生の社会科で奈良県の水害や地震の学習をし、自分にできることを考える機会とするための新しい取組です。

自分たちの住んでいる明治小学校区に災害があった時、避難所になっている明治小学校の防災倉庫にはどんなものが保管されていて、いざという時にどのように使うのかなど、地域の防災について詳しく教えていただきました。

まず明治ホールに集まり、災害時の備えや災害発生時の対応について、家族で話し合っておくことが大切だと教えていただきました。自分の家の中は安全かどうか、危険箇所の点検や確認をしておく必要があること、安全な空間づくりのポイントなどを知ることができました。また、災害時に備蓄しておくと良い品の確認をしました。いつまでも備蓄しておくのではなく、多めに蓄えて、使いながら備えること(ローリングストック)が大事ということと、避難所に行けば物があるというのは間違いで、すぐに必要になるものは非常持ち出し品として用意しておくことが大切であることも教わりました。

次に、グループに分かれて、体育館で明治小学校の防災倉庫の中にある防災テントやマット、災害用発電機、炊き出し用大鍋等、実際に子どもたちに見せていただき、使い方の説明をしてもらいました。また作り方や組み立て方の体験をさせてもらいました。

子どもたちは、「どうすれば命を守ることができるのか」、「自分にできることは何か」を主体的に考えることができました。

【今年度のまとめ】

地域の方々と子どもたちが共に活動する機会をたくさん持つことで、子どもたちは地域の方々と親しみをもって触れ合い、様々なことを学ぶことができました。子どもたちは地域の一員としての自覚と誇りをもち、自尊感情を高める取組につながりました。今後も学校と地域が連携を図ることにより、子どもたちが自己肯定感を持てるような取組等を更に進めていきたいと思います。

【来年度に向けて】

地域との連携を更に深め、新たな取組と人材発掘に努め、今後も「地域と共に歩む学校」をめざして取り組みを続けたいと考えています。

令和３年度　取組報告　　**奈良市立帯解小学校運営委員会**

めざす子ども像　**〇みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども**
〇「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども
〇感性豊かで、たくましく自立する子ども
〇地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
〇共に汗して働くことのできる子ども

取組目標　**豊かな感性をもち地域とともに主体的に生きる子どもの育成**

【今年度の取組紹介】

帯解小学校では、地域の方をゲストティーチャーとして招き、地域の方と共に活動したり、学んだりする取組を栽培活動や体験・交流活動、聞き取り学習として組み込んでいます。しかしながら本年度も、昨年度に引き続きコロナウイルス感染拡大防止のため、大半の事業を断念せざるを得ず、本来の地域で決める学校予算の活動ができない１年間となりました。そんな中でも、何とか実施できた事業を紹介します。

５年生における栽培活動においては、地域の方からお借りした田で実際に籾まきから田植え、秋には稲刈りの体験をさせていただきました。収穫祭は残念ながらできませんでしたが、身近なお米の栽培に関わり、地域の方とつながることで、地域の良さを知り、感謝の心が育まれています。縦割り班で校区をめぐる「なかよし遠足」では、地域の訪問先や PTA・民生委員等の支援の下、自分たちの故郷を散策しながら学ぶ良い機会を得られ、さらに自分たちの校区に対する郷土愛が育てられたようです。

地域の方々の知恵をいただく貴重な機会となっています。こうした地域学校連携は、児童の豊かな感性の育成につながっています。今後も『市民と協働した教育を進める「３０万人の市民を先生に」』という奈良市教育振興基本計画の基本方針実現ために、さらに地域の方と子どもたちがつながり、学びの輪が広がることを願って取組を進めています。

【今年度のまとめ】

本年度は、本校の特色でもある地域の方に学ぶ聞き取り学習や体験・交流学習・栽培活動が制限されましたが、毎朝の登校見守りや上記活動で児童が地域の方と関わる中で、学校だけでは学べない体験をし、豊かな感性の育成につながりました。地域の方との活動は、学校評価において、児童・保護者共に 94%の肯定的な回答を得ました。学校教育の様々な場面で地域の方に見守られ、支えられながら地域の歴史を知り、地域に愛着をもつ子どもたちの育成を目指しました。

【来年度に向けて】

来年度も精華・帯解両地区の良さを生かした取組を大切にしながら、地域で学んだことを誇りに思う児童の育成と、豊かな感性をもち、主体的に生きる子どもの育成を目指していきたいと考えています。また、取組の内容を多くの方に知っていただき、さらに継続・発展くさせていくために広報にも力を入れていきます。

令和３年度　取組報告　　**奈良市立明治幼稚園運営委員会**

めざす子ども像

〇みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
〇「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども
〇感性豊かで、たくましく自立する子ども
〇地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
〇共に汗して働くことのできる子ども

取 組 目 標　**豊かな心をもち、いきいきと活動する幼児の育成**

【今年度の取組紹介】

『お茶会』１年を通して数回、地域のお茶の先生に来ていただき、お茶の作法を教えていただきました。前日に自分達で机を出したり赤い毛氈を敷いたり、お茶会の準備をしました。当日は、挨拶の仕方やお菓子の食べ方、お茶の点て方、お茶の飲み方等、たくさん教わりました。「お茶、ちょっと苦かったけど全部飲めたよ」「おいしかった」と嬉しそうに話していました。回を重ねる毎にやり方もわかり、お茶を点てるのもさまになってきました。お茶の先生には、お茶を点てる作法だけでなく、挨拶の大切さなども教えていただき、子ども達も真剣な眼差しでお話を聞いていました。なかなか経験できない伝統文化に触れ、立ち振る舞いや礼儀の大切さなどを知るよい機会となりました。

『絵本の読み聞かせ』地域の民生児童委員の方が１年を通して定期的に「絵本の読みきかせ」に来てくださいました。季節にあった絵本や大型絵本など、毎回子ども達の興味がありそうな絵本を選んでお話を届けてくださいます。子ども達は「今日はどんなお話かな」と、ワクワクドキドキしながら当日を迎えています。子ども達はお話に興味をもち、もっと絵本が大好きになりました。

【今年度のまとめ】

コロナ禍の１年で地域の方とふれあう機会も限られていましたが、その中で経験した１つ１つが大変貴重なものとなりました。また１年を通して地域の方に関わっていただくことで「民生さんだ」「〇〇さんだ」と、より親しみや感謝の気持ちをもったように思います。また、様々な取組を通して感動体験を味わい、豊かな感性につながっていると感じます。地域の方々が来てくださり、認めてもらったり褒めてもらったりすることで、自信や意欲にも繋がりました。

【来年度に向けて】

地域の方々の協力を頂きながらその中で、地域の方とのつながりを感じながら様々な感動体験ができるように、また子ども達が、地域の方に親しみの気持ちや感謝の気持ち、地域を大切に思う気持ちが育つように、取り組んでいきたいと思います。

令和３年度　取組報告　　**奈良市立帯解こども園運営委員会**

めざす子ども像

〇みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
〇「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども
〇感性豊かで、たくましく自立する子ども
〇地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
〇共に汗して働くことのできる子ども

取組目標　**地域に開かれたこども園をめざし、豊かな心とたくましい体を育む**

【今年度の取組紹介】

秋に山町地域環境保全協議会、そして地域の方にご協力いただき、芋掘りをしました。春に準備していただいていた畑に、４・５歳児６０名の子どもたちはサツマイモの様子を見に出かけ、期待に胸を膨らませながら芋掘りの日を迎えることができました。当日は、ぬかるんだ畑の土に足を取るられ戸惑う子ども達でしたが、地域の方に掘り起こしていただいたり、「ここにもありそうだな」と一緒に掘り起こしたりと、小さなものから大きなものまで、たくさんのサツマイモを掘ることができました。11 月にはそのサツマイモを使って焼き芋パーティをしました。芋を焼く準備をしていただき、子ども達は煙がもくもくと上がる様子に期待いっぱいで登園し、焼き立てのおいしさを味わう嬉しい体験ができました。また、畑の先生として地域の方に来ていただき、子ども達と畑づくりや種まき・苗植え、畑の世話の仕方を教わりながら、キュウリ・カボチャ・ブロッコリー・白菜など、季節の野菜を育てて収穫し、日々のちょっとした変化を水やりの世話等をしながら感じ、生長の喜びや収穫への期待、そして、食への意欲などにつながる豊かな心の育ちの経験となりました。

【今年度のまとめ】

地域の方々と共に継続して取り組んできたことによる子どもたちの見通しを持った期待や喜びがあるからこそ、水やりという当番活動での責任感や「昨日より葉っぱ出てきてる」「これ大きくなったらどんなふうにして食べたら美味しいと思う？」といった子ども達の姿や言動に繋がっていると感じています。菜園活動、環境整備、教育支援等、地域の方の様々な協力や支援なしでは経験できない体験を積み重ね、関わって活動することで、それぞれの活動での経験が相互に作用し、園の環境や子ども達の経験が豊かになっていることを子どもたちの姿から実感しています。

【来年度に向けて】

これまでの経験を活かして感染対策を行い、地域や保護者の方の協力を得ながら、子どもたちの学びや育ちにつながるような多様な経験と地域の方とのつながりを大切にしつつ、情報発信もすることでこども園の教育・保育への理解を更に深めていただき、地域に開かれたこども園として事業を進めていきたいと思います。

令和３年度　取組報告　　**奈良市立高円こども園運営委員会**

めざす子ども像　**〇みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども**
〇「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども
〇感性豊かで、たくましく自立する子ども
〇地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
〇共に汗して働くことのできる子ども

取組目標　**・地域とのかかわりを通して、お互いを認め合い、助け合い、思いやる心を育てる。**
・地域の良さを生かした、豊かで多様な体験をしながら、生きる力の基礎を培う。

【今年度の取組紹介】

高円こども園では今年度初めて行う事業として、東人権文化センターの陶芸教室で活動されている地域の方々と、「焼き物体験事業」を実施し、花器の製作をしました。初めて陶芸の粘土に触れ、教室の先生に粘土の伸ばし方から教えていただきました。「なんか、硬いなあ。」「もうちょっと大きくしたいなあ。」等と、粘土の感触を味わいながら形の変化を楽しみ、地域の方々と会話をしながら交流を深め、作業を進めることが出来ました。成形、素焼き、色付け、本焼き等の工程の変化をワクワクしながら楽しみ、自分だけのオリジナル花器作りに大喜びでした。その後、「生け花体験事業」を講師の方を招いて実施し、子ども達が自分で作った花器に花を生けました。花器作りから生け花まで、自分だけの表現が出来る貴重な体験となりました。

また、「菜園活動事業」では、畑の先生として講師を招いて夏野菜やさつまいも等の菜園活動を１年間継続して行いました。土の掘り方や植え方等を教わり、自分達で大切に植えた野菜苗に愛着を持って自ら水やりをし、野菜が生長していく変化の様子を収穫に期待を持ちながら楽しみました。収穫した野菜を調理員さんに調理してもらったり、おいもクッキングをしたりして食育に繋ぐこともできました。

「焼き物体験」「生け花体験」「菜園活動」等を通して、地域の方に親しみを感じ、感性を豊かにする経験を行うことが出来ました。

【今年度のまとめ】

コロナ禍の影響があり、実施できなかった事業もありました。しかし、取り組み方の工夫をしながら実施した「焼き物体験」「生け花体験」「菜園活動」「和太鼓教室」「防災教室」等の活動を通し、地域の方々にご協力をいただきながら、実際に感動出来たからこそ、優しい気持ちや思いやりの心、考える力、みんなと一緒にするから楽しいと思える気持ち等、豊かな感性を育むことが出来たと思っています。

【来年度に向けて】

コロナ禍の中であっても取り組み方の工夫をし、今後も子ども達が地域の方との交流を深めながら、自分たちの住む地域に親しみを持ち、感性豊かなしなやかな心と身体を育む取組が出来るようにしていきたいと思います。また、これらの活動を保護者や地域の方と共に進めながら、活動内容の充実をはかっていきたいと思います。そしてこども園の教育・保育内容への理解を深めてもらい、開かれた地域のこども園になっていきたいと思います。

令和３年度　取組報告　　**奈良市立辰市こども園運営委員会**

めざす子ども像　**〇みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども**
〇「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども
〇感性豊かで、たくましく自立する子ども
〇地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
〇共に汗して働くことのできる子ども

取組目標　**〇地域の教育力を生かした取組の中で、**
ひとりひとりの笑顔が輝き安心して園生活を送れるようにする。

【今年度の取組紹介】

数年、継続している体力づくり事業「サッカー教室」は、地域に拠点を置かれている奈良クラブよりコーチを招きました。子どもたちがボールに親しめるように子どもの姿に合わせて段階的に遊びを進めてくださいました。体ほぐしから始まり、ボールに触れた遊びを十分楽しみ、心も体もほぐれた後は、チームに分かれミニゲームをしていただきました。子ども達は回を重ねるごとに思う存分体を動かすようになり、サッカー教室を心待ちにするようになりました。ミニゲームをする中で、友達同士切磋琢磨しながらボールを追いかけ、懸命にゴールを狙う姿が見られるようになりました。また、コーチにも親しみを持つようになり、笑顔で会話するようになり、積極的に質問する姿もみられるようになってきました。

サッカー教室の始めと終わりにはきちんと整列し、挨拶を交わしたり、ゲームの中では簡単なルールを守ったりしながら遊ぶなど、規律や規範意識の芽生えにもつながっています。
夢中で遊ぶ中で、達成感を感じサッカー教室だけで終わることなく日頃の遊びに取り入れ、参観ではサッカー遊びを取り入れ保護者に見てもらう姿がみられました。

【今年度のまとめ】

コロナ禍で、昨年に引き続き例年通りの交流の形ではなかったのですが、人数を制限したり、時間を短縮したり、また密を避けた環境作りを工夫しながら、事業に取り組んできました。地域の方からは子ども達が園で遊びや生活する姿を見ていただき、園教育を知ってもらう機会になりました。今後も地域の方を身近な存在と感じ、地域に開かれたこども園となるように地域の方と共に歩んでいきたいと思います。

【来年度に向けて】

コロナ禍であっても、地域の方の教育力を生かした取組ができるように、今年度の経験をもとに、事業に取り組んでいき、園・地域・家庭と連携し子どもにとって、より良い豊かな体験が出来るように検討して計画し進めていきたいです。